

資金別貸借対照表の実践

資金別貸借対照表の作成は難しいと思っていらっしゃいませんか。いざやってみるとそんなに難しいものではありません。

仕組みが理解できるまでは必ず鉛筆と電卓を使用し、くれぐれもパソコンの表計算ソフトは使用しないで下さい。

資金別貸借対照表における売掛金と買掛金、借入金の各勘定科目の解釈は以下の通りです。この解釈を理解できるようになるまでは作成を繰り返し、表に現れる数字の本質を見極めましょう。

損益資金

資本主義の原則は相手より多く現金を奪うことです。従ってこの損益資金は必ずプラスでなければいけません。この資金がマイナスの場合は、すぐに改善が必要です。

「企業を買収するときは、損益資金のマイナスの会社を標的にする。」この手法で会社を買収して利益を上げた例もあります。有能な経営者が経営に参画すると、瞬く間にプラスに転じるものなのです。

損益資金一棚卸資産 大きなマイナスの会社

業態としては小売業に多く見られます。粉飾決算では有りませんが、金額の推移については細心の注意を払う必要があります

固定資金

この固定資金の中に棚卸資産が入りますので、注意してください。

この資金には、本社ビルや自動車といった、経営者サイドの能動的な体質が良く表れます。

損益資金のところでは言いましたが資本主義の原則は相手のより多く現金を奪う事なのです。

損益資金で上手く奪っても、この資金でそれ以上に奪われたら何もなりません。

この資金の運用額を、企業経営に必要な科目だけにすると「筋肉質の財務体質」といえます。

これを目指しましょう。

又資金の調達で重要な科目は借入金です。資金会計理論では借入金は収益の先取として

捉えています。なので、殆どがこの科目で各資金のバランスをとる事になります。

売上仕入資金

この資金は、業態により銭余る即ちサイト勝ちの業種と、銭足らず即ちサイト負けの業種に分

かれます。どちらが良い悪いというのではなく、その業種の持つ特殊性と捉えます。小売業は

この銭余る業種にあたりますが、この資金を利益と勘違いして浪費をしていると倒産してしま

います。

安定資金

財務の基本は「損益資金が残れば良い」という考えが基本です。

『資金会計理論では損益資金安定資金は絶対にプラスです』

各資金のプラスマイナスの原因を財務体質といい、各資金のプラスマイナスの分析が財務分

析です。なぜこのような財務状態になったのかを考え、会社経営を見つめなおすことが重要

です。